

研究概要

【課題名】

透析中の運動療法が骨格筋指標に与える影響

【研究目的・意義】

外来透析患者は筋力低下・日常生活動作能力の低下が懸念され、多くの透析患者がフレイル、プレフレイルの状態にあり、透析患者の運動耐用能は健常者の1/2程度であると報告されている。運動耐用能の低下した高齢透析患者に対する運動療法の目的は、身体的、社会的な自立性を維持することであり、近年、腎臓リハビリテーションの重要性が謳われている。当院では2018年より理学療法士、看護師、臨床工学技士の多職種で透析中の運動療法を実施してきた。その運動療法の提供が、透析患者の身体機能維持・向上に影響しているかを検証するために、半年ごとに、身体能力測定と生体インピーダンス法での骨格筋指標の測定を行った。運動療法の効果が実証され、多くの患者に提供できれば、日常生活動作能力の低下を予防し、要介護状態の予防の一助になると考える。

【方法】

対象は透析中に運動療法を実施している65歳以上の歩行可能な患者(平均年齢76.8±0.0)とし、Short Physical Performance Battery (SPBB)、Weight Bearing Index (WBI)、握力及びSkeletal Muscle mass Index (SMI)の結果を統計学的に解析し比較検討した。運動内容は、透析中に自重または重錘(0.5 kg～2.0 kg)を用いた下肢を中心としたレジスタンストレーニングと、仰臥位用負荷量可変式エルゴメーターを用いた有酸素運動である。いずれの運動も透析中にベッド臥床の状態で行っている。運動を継続した1年間の評価項目のデータを半年ごとに、反復測定による一元配置分散分析にて比較した。

【患者様への不利益】

当院独自で行い、カルテで後方視的に行う研究のため患者さんが不利益になることはありません。

またこの研究に参加されることを拒否することも可能であり、拒否されても不利益になることはありません。

【本研究の情報公開の方法】

日本透析医学会学術集会・総会にて口演を予定しております。

【個人情報等の取り扱い】

カルテで得られた情報を Excel ファイルに集計しパスワードロックをかけます。患者氏名や ID は記載せず症例番号のみで匿名化し、ファイルは病院長によって保管されます。またデータの廃棄につきましては、少なくとも研究終了報告日から 5 年、または最終の研究結果報告日から 3 年の、いずれか遅い方まで保管し、それ以降に廃棄します。

【研究の負担や利益相反】

この研究では患者さんの費用負担や謝礼も発生しません。本研究と各種団体、企業との利益相反はございません。なお研究実施担当者の利益相反もございません。

【ご質問・研究を拒否される場合】

本研究の実施計画書および研究の方法に関する資料を詳しくお知りになりたい場合には研究実施責任者にお問い合わせください。申請者本人に当院倫理委員会に提出した資料を外来で開示します。ご不明な点や研究を拒否される場合などがありましたら、河北総合病院の総合受付：03-3336-2500 にお電話頂き、研究実施責任者におつなぎ下さい。

【研究機関・問い合わせ先・研究実施責任者】

河北透析クリニック 看護科長 泉マユミ、浜元勇人
住所：〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北 1-18-9
電話番号：03-3336-2500